

'21 ミス日本「海の日」吉田さくらさん

◆【さくらの休日 第5回】②

憧れから身近な存在に 大好きな海を後世へつなげたい

4月に横浜ベイサイドマリーナで開催されたジャパンインターナショナルボートショーでは、ボートオブザイヤー受賞式のお手伝いなどを経験しました。世界各国から約60隻の船が集結した光景は圧巻で、今でも忘れられません。また、海洋業界で働く方々のお話を直接聞き、皆さんの温かい人柄や海への愛情が伝わってきて、さらに海洋業界への興味を深めることができました。会話の中で、魚介類の生息や生育に好影響をもたらす森林「魚つき林」について教えていただいたことが特に印象的でした。私が海なし県の群馬県出身というお話から、漁業関係者の方が、海がないからといって海と関係がないということではないと教えてくださったことが、海の環境と自然の恵みの利用の仕方について興味を持つきっかけにもなりました。このように会話から新たな知識を得たり、意見を交換したりできることも「海の日」として活動できたからだと思います。

夏には、海上保安庁「海の事故ゼロポスター」のモデルを務め、ライフジャケット着用や海の安全な楽しみ方をアピールしました。ポスターを実際に見た方から「あらためて海難事故について考えるきっかけになった」という声を聞くなど多くの反響があり、うれしかったです。船舶所有者や運航者をはじめとする海事関係者、漁業関係者、マリンレジャー愛好家など、船舶運航に直接関わる方はもとより、海運、漁業活動の恩恵を享受している私たちも、海難防止について関心を高めることが重要だと学びました。

青い羽根募金のアンバサダーを務めた際には、海で遭難した人々の救助活動にあたる全国のボランティア救助員の方々、約5万2000人が懸命に人々の命を守っている事実を、一人でも多くの人に知ってもらいたいという一心で、SNSなどでPRをしました。

他にも、総貿易量の99%以上は船による輸送であることを学び、海運や港湾の有識者の方と対談する機会や、「海の万博」といった持続可能な海洋を目指した意見交換を目的とされたセミナーの総合司会を務めるなど、幅広く活動をさせていただきました。私の「海の日」としての活動が、私たちの暮らしや日本の経済を支える海や船の仕事、そこで働く人々について考えるきっかけに少しでもなれたのであれば、これ以上うれしいことはありません。

「海員だより」